

茨城県行財政改革推進懇談会（第48回）議事録（発言要旨）

1) 第6次行財政改革大綱中間とりまとめ（案）について （資料1から3により事務局が説明）

（委員）

- ・「少数精鋭の体制づくり」という言葉に”やる気”を感じて、委員として率直に嬉しく思う。
- ・中間とりまとめについては、我々の委員の意見を採用し、反映してくれたことに対して敬意を表す。今後は、数値目標をどう入れていくかが課題である。

（委員）

- ・今日に至るまで複数回議論を重ねた上でのとりまとめであり、非常に回を重ねた価値のあるまとめを作れたと感じている。
- ・第6次が始まる来年度以降は、その進捗状況を検証し、議論する場を設けていただきたいと思う。
- ・この中間のとりまとめには賛成であり、これに従って行財政改革が進むことを心から期待している。
- ・将来の茨城県を担う高校生などに対しても、本県の財政状況や改革の必要性などをきちんと伝えていただきたいし、説明する責務があると思う。それを聞いて高校生もまた自分達が何をすべきかということを考える良い機会になると思う。

（委員）

- ・出資団体の削減目標があるが、配当のある団体は敢えて削減しなくても良いのではないか。
- ・団塊の世代が65歳になりつつある。団塊の世代やそれに続く世代が退職した後の状況を頭に描きながら対応すべき内容のものもあるのではないか。

（委員）

- ・ここまで取りまとめた皆様に敬意を表したい。
- ・東日本大震災後の初めての第6次大綱ということで、再検証の必要性があったということですが、具体的にどこに重きを置いたのかを教えてください。

（事務局）

- ・しっかりと「震災からの復興」を位置づけていかなければならないということ。まず、基本理念の中で「震災からの復興」を位置づけたほか、様々な箇所に記載した。例えば県庁改革では、「東日本大震災を踏まえた防災体制の整備」ということで、しっかりと体制を構築していかなければいけないということ。また、「新しい公共」の中では、震災後の復旧の場面の中で県民の中でお互いに助け合う気持ちが芽生えてきたことを受け、もっと地域の力を引き出すであるとか、協力しながら進めていくというの

は重要な視点であることを書き込んだ。

(委員)

- ・まさに私が感じていたことが書き込まれていることを確認し、安心した。
- ・少子高齢化も進むなかで、これから効率化だけを考えていけばいいのではなく、NPOや女性の参画などが反映されているということは本当にありがたい。

(委員)

- ・震災後、地域のかや人の繋がり、やる気といったものがすごく大事だということが分かった。
- ・「新しい公共」とあるが、基本的には行政のやってほしいことをNPOの力を借りて行う、という流れに変わってきている。必ず助成金を出すときにも市町村の担当者を決めて一緒に応募するようになってきており、これはよい傾向だと思っている。
- ・「新しい公共」の良い事例として東京都中央区の「協働ステーション」がある。コーディネーターをおいてNPOの活動と行政のニーズのマッチングを行っている。こういったところも参考にさせていただきたいと思う。

(委員)

- ・職員数を減らすことも大事だが、20代、30代の職員数が比率で見るとすごく小さそうに見えるので、しっかりフォーカスを当てていただいて、若い職員が頑張れる体制も考えていただきたいと思う。

(委員)

- ・若手職員の登用や組織内のフラット化を図って若手が能力を発揮できる様なシステムにしてほしい。
- ・職員が55歳以上になったら、その後の社会での生き方を考える、退職後を考えるようなチャンスを県庁内で与えることも、これから大事なこと。第2の人生も働けるような人づくりというのも必要ではないか。

(委員)

- ・民間企業も公・公益のためにやっている。資本を稼がなくてはいけないので民間企業としてやっているが、その目的は公共、人のために役に立つことをしている。公共は行政だけが担っているのではない。

(事務局)

- ・県庁改革については、具体的な数値目標が立てにくい面はあるが、分かりやすい目標を立てるという基本方針で最終とりまとめに向けて頑張って取り組んでいく。
- ・行革大綱は作っただけではダメで、進捗を検証しながら推進していくことが重要であるので、委員の皆様にもご報告しながら、着実な推進に努めたい。